様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月　 １ 日現在

機関番号：３２６４２
研究種目：若手研究(A)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２６８１０３６

研究課題名（和文）アフリカにおける先住民運動の展開と地域社会の再編に関する比較研究

研究課題名（英文）Comparative Studies on Indigenous Peoples' Movements and

研究代表者
丸山　淳子（Maruyama, Junko）

津田塾大学・学芸学部・講師

研究者番号：００４４４４７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　13,800,000円、（間接経費）　4,140,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アフリカの複数地域を対象として比較研究によって、国際的に展開される「先住民」の権利回復の運動によって、アフリカの少数民族が、政治参加や文化維持、あるいは土地の権利を取り戻しつつある一方で、他地域で練り上げられたのちに、最近になってアフリカに導入された「先住民」という概念が、個別地域の実情と齟齬をうみ、かえって彼らの排除を進めたり、地域社会に新たな対立を生じさせていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：As a result of the comparative studies on several ethnic minorities in Africa, it was elucidated that many of them acquired political, economic or cultural rights for the first time after a long period of marginalization, by learning from other indigenous peoples' experiences of struggle and support from global indigenous peoples' movement. Simultaneously, however, the case studies underscored that the controversial nature of the notion of 'indigenous peoples' in Africa sometimes accelerates the exclusions of the marginalized peoples or creates new conflicts in local communities.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：先住民　社会運動　グローバリゼーション　国民国家　アフリカ　土地権　政治参加　地域社会

１．研究開始当初の背景

21 世紀に入り、「先住民」に対する国際的な関心が急速に高まっている。北米やオセアニアで始まった先住民の権利の承認をめざす動きは、2007 年には国連で「先住民の権利宣言」が採択されるなど、国際機関の牽引によって、かつてない速度と規模で進んでいる。従来、「先住民」の存在や問題が俎上にあがることはほとんどなかったアフリカでも、周辺化された少数民族の多くが「先住民」として権利回復運動に関わり、国際社会からの強い政治・経済的サポートを受け始めたことは、彼らが直面する問題の解決を導くものとして期待されている。しかし同時に、植民者との境界が明確な北米やオセアニアで育まれてきた「先住民」概念が、アフリカに急速に「輸入」されたことは、地域社会に複雑な問題を生じさせ始めてもいる。「先住民」運動は、国際社会からのサポート故に、マイノリティに力をもたらすが、そのことが同時に個別地域や国家の実情と齟齬を生み、却って彼らを周辺化したり、各地域で育まれてきた多民族共存のあり方を解体するというジレンマも生んでいることが予測される。

２．研究の目的

本研究の目的は、国際社会において急速に力を持ち始めている「先住民」という国際言説や概念、その権利回復の運動が、アフリカの少数集団の直面する問題解決にいかに寄与し、あるいは齟齬を生み、また既存のアフリカ国家と国民の関係や地域社会全体の民族間関係にいかなる変化をもたらしつつあるのかを具体的な事例に基づいて解明することである。そのために①国家政策や民族間関係の様態が異なる複数の地域で、先住民運動が生む成果や矛盾、それによる地域社会の再編過程を明らかにする。②超国家的なアフリカ「先住民」ネットワークがいかに築かれて、それがどのような意味をもっているのか検討する。③「先住民」との共同作業によって、地域の文脈に沿った「先住民」問題の解決と多元的社会のあり方を追求することを目指す。

３．研究の方法

ボツワナと南アフリカにおいて「先住民」として知られるサンを主な対象とし、彼らの暮らす定住地およびその周辺地域で、現地語を用いた聞き取りや参与観察を実施した。またアフリカの「先住民」ネットワーク形成に寄与している NGO などの団体にも聞き取り調査を行った。さらに、大学図書館、公文書館などで文書資料を収集、分析した。

地域間比較のために、タンザニアで「先住民」主張をしているハッザの居住地域でも短期的な調査を行うとともに、研究協力者らの報告をもとに、ナミビア、カメルーン、タンザニア、ケニアなどの「先住民」状況を分析した。

また「先住民」と大学、行政、ＮＧＯなどのスタッフとも定期的に意見交換の場を設け、最終年には合同でワークショップを開催し、議論を深めた。

４．研究成果

①本研究がボツワナおよび南アフリカで、主たる調査地としたのは、いずれもサンが「先住民」として土地へアクセスする権利を取り戻したことで広く知られる地域である。しかし、そのプロセスにはそれぞれ独自の展開が見られた。

ボツワナのサンは、植民地化の過程でリザーブに囲い込まれ狩猟採集生活を続けてきた人々で、故地からの立ち退き政策が実施された際には、その典型的な先住民イメージによって、国際社会からの多大な支援を集め、土地権回復運動がすすめられた。一方、南アフリカに暮らすサンは、植民地化と国家独立の過程で従軍経験をもったことによって、自然に依存した生業も崩壊した。一方で軍隊を通して早くから組織化や教育を経験し、その延長線上で「先住民」の運動へと展開していった。また、国民統合に力をいれて、民族別に異なった対応をすること避けるボツワナでは、国外からのサポートを受け、サンの独自性を強調する「先住民」運動は、多くの国民の強い反発をもたらした。一方で、多文化主義と少数者の権利の尊重を正しいとするポスト・アパルトヘイトの南アフリカでは、サンの文化的独自性の強調はその象徴としても歓迎された。また国内の他のコイサン系の諸集団とのネットワーク化が進んだことで、運動も大きく前進した。

このように両者の歴史経験と国家の政治体制、国内の他民族と関係性の違いによって、同じ「サン」の「先住民」運動であってもその様相や意味が大きく異なることが明らかになった。さらにナミビアや、カメルーンやタンザニアなどの事例からも、「先住民」社会が、地域社会のなかで歴史的にどのように位置づけられてきたのか、とりわけ近隣民族といかなる関係を築いてきたのか、国家の政治体制がどのように変化してきたのか、といった点の相違が、「先住民」運動やその主張のあり方に、大きな多様性を生んでいることが判明した。

これらの研究結果は、複数の論文や学会報告として発表された。

②アフリカは、「先住民」運動が早くから盛んであった北米やオセアニアとは、民族間関係の歴史や国家成立の経緯が異なっており、「先住民」運動やネットワーク化もアフリカ特有の展開を見せていることが明らかになった。まず、アフリカでは、「先住民」の存在自体が、「先住民」のグローバル/リージョナルなネットワーク化が進むなかで顕在化

したものであった。国家による「先住民」政策はほとんど見られず、国家を超えた「先住民」どうしのネットワークやそれを支援する国際機関や NGO が、「先住民」問題に関わる中心的アクターであった。またその歴史的経緯から、アフリカでは「先住民」の基準として用いられてきた先着性と植民者の関係は重視されず、代わって文化的独自性と土地との特別なつながりが「先住民」の特徴として強調されるようになっていた。そして「先住民」の範囲が従来よりも柔軟にとらえられることによって、ヨーロッパ系の植民者ではなくて、アフリカ系の政権に対する異議申し立てとして「先住民」主張が可能になっていた。

これらの結果、アフリカ各地で、これまでは国家のなかで声を上げることができなかった人びとが、「先住民」ネットワークにサポートを得て、土地や資源にアクセスしたり文化や言語を維持する権利を取り戻すことが、部分的にせよ可能になっていることがわかった。一方で、地元に根付いた運動や機運が醸成される前に、国家を超えた動きが先行し、他地域で練り上げられた「先住民」概念やその運動手法がそのままもちこまれることになり、多くのジレンマを生んだ。脱植民地化の途上にあり国民形成に力を入れるアフリカ諸国家にとって、文化や社会の独自性を維持し、自主決定することが可能な存在としての「先住民」を承認することは、分離独立や国境修正を招くと危惧する声は大きく、「先住民」運動は、ときに地域社会に大きな亀裂や対立を生んでいた。さらに深刻な問題として、外部からの支援によって進められる運動自体が「先住民」を「自ら語ることのできない人々」としてしまったり、文化的独自性や土地とのつながりが「先住民」の要件として重視されるがゆえに、すでに独自の文化や土地を喪失した人々は、この運動から排除されてしまうといったこともおこっていることが明らかになった。

またこれらの考察は、ドイツで開催された学会で、研究代表者が組織したパネルで議論が深化され、その一部は英文雑誌の特集号として出版される予定である。

③調査期間中にもボツワナおよび南アフリカではサンの若い世代が中心となって「先住民」として、あるいはマイノリティとしての組織化や活動が進んだが、その過程に関わりながら、政治参加や文化の維持について知見や議論を交換した。

また最終年には、ボツワナの調査地域において、これまで本研究への協力が得られた地元のサンや若手エリートのサンに加えて、地元の NGO や団体、ボツワナ大学の研究者らと合同ワークショップを開催した。サンのおかれている状況を互いに報告しあい、サンの在来知識やその活用に関して議論を深めた。ワークショップの進行には少数言語であるサン言語を用い、サンが中心的に関わるワークショップにすることによって、地元の文脈に沿った問題解決を模索する議論が可能になった。この点が高く評価され、今後も、定期的にこうした機会を設けることとなった

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　9 件）

丸山淳子 2013「ボツワナの狩猟採集民は「先住民」になることで何を得たか」内藤直樹・山北輝裕編『社会的包摂/排除の人類学』昭和堂　pp.57-75 査読無

丸山淳子 2012「「統治の場」から「生きる場」へ—ボツワナにおけるサンと「先住民」運動」『文化人類学』77（2）　pp. 250-272 査読有

丸山淳子 2012「投げこまれる砂—あるサンの男性の葬儀をめぐって」池谷和信編『ボツワナを知るための 52 章』明石書店 pp.119-123 査読無

丸山淳子 2012「ハイナ平原を行き交う人びと—ボツワナ北西部の民族移動小史」池谷和信編『ボツワナを知るための 52 章』明石書店 pp.217-221 査読無

丸山淳子 2012「原野につくりだされた小さな町—遠隔地開発計画の進展」池谷和信編『ボツワナを知るための 52 章』明石書店 pp.254-258 査読無

丸山淳子 2012「遠隔地開発計画の光と影—あるサン女性の人生」池谷和信編『ボツワナを知るための 52 章』明石書店 pp.259-263 査読無

丸山淳子 2012「ケータイが切りひらく狩猟採集社会のあらたな展開：ボツワナにおける遠隔地へのケータイ普及がもたらしたもの」羽渕一代・内藤直樹・岩佐光広編『メディアのフィールドワーク：アフリカとケータイの未来』北樹出版 pp.174-189　査読無

丸山淳子 2012「エランドの肉も、ウシのミルクも：狩猟採集民サンの多様な生計維持活動」松井健・野林厚志・名和克郎編『生業と生産の社会的布置－グローバリゼーションの民族誌のために』pp.57-88 査読有

丸山淳子 2010 「『サウス・アフリカ』に続く道：ボツワナのブッシュマンと南アフリカ」峯陽一編　『南アフリカを知るための 60 章』明石書店 pp335-339 査読無

〔学会発表〕（計　30 件）

Maruyama, Junko “Possibilities and Dilemmas Within Indigenous Peoples’ Movement in Africa: Experiences of the San in Southern Africa” 112th American Anthropological Association Annual Meeting, Chicago, IL, USA 2013.11.20.

Maruyama, Junko “Indigenous peoples’ movements in southern Africa and Australasia” International symposium “Africa and Asia

Entanglements in Past and Present" Stellenbosch Institute of Advanced Studies, Stellenbosch, South Africa 2013.11.4.

丸山淳子「移住してきた『先住民』:南部アフリカにおけるポストコロニアル国家と『コイサン』」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究会「現代アフリカにおける＜国家的なもの＞に関する研究」　東京外国語大学 2013 年 10 月 13 日

丸山淳子「サンの食物分配の変化と連続性:「平等主義」社会と経済格差」」国立民族学博物館共同研究会「贈与論再考」国立民族学博物館　2013.9.29.

丸山淳子「南部アフリカ狩猟採集社会の食物分配にみられる変化と連続性」武蔵経済セミナー武蔵大学 2013 年 7 月 19 日

Maruyama, Junko "Straddling Bush and Resettlement site: Contemporary Dynamics of Residential Moves among the Central Kalahari San" 10th Conference on Hunting and Gathering Societies (CHaGS), Liverpool University, UK. 2013.6.25.

丸山淳子「「兵士」から「先住民」へ：南部アフリカの脱植民地化とサン」第 50 回日本アフリカ学術学会 東京大学　2013 年 5 月 25 日

丸山淳子「南部アフリカの脱植民地化と「ブッシュマン兵士」」第 12 回武蔵野アフリカ研究会　津田塾大学 2013 年 5 月 1 日

Maruyama, Junko "From 'Displaced People' to 'Indigenous People': Experiences of the !Xun and Khwe San in South Africa" International Symposium: Indigenous Identity and the Discourse of Indigeneity in the Age of Neo-liberalism, Tokyo University 2013.1.27.

丸山淳子「カラハリ砂漠で育つあかちゃん:狩猟採集民サンの現代おむつ事情」シンポジウム「発展途上国と"おむつ使用"について考える」国立国際医療研究センター2012 年 11 月 20 日

丸山淳子「南部アフリカにおける脱植民地化とブッシュマン兵士」研究会「兵士・労働者・女性の植民地間移動にかんする研究」　東京外国語大学 2012 年 11 月 18 日

丸山淳子「「先住民サン」が現れるまで：南部アフリカにおける脱植民地化のなかで」研究会「先住民の交渉」東京大学 2012 年 11 月 10 日

Maruyama, Junko "Mobility and Residential Pattern among the Resettled San Hunter-Gatherers in Botswana" (ポスター発表) Japanese-German Frontiers of Science Symposium (JGFoS), Potsdam, Germany 2012.10.26.

丸山淳子「多層的「デモクラシー」のなかで—サン社会のウチ／ソトの政治」国立民族学博物館共同研究会「デモクラシーの人類学」国立民族学博物館 2012 年 9 月 29 日

丸山淳子「南部アフリカにおいて「先住民」になること：『変化を生きぬくブッシュマン』とその後の展開」九州人類学研究会シンポジウム　熊本大学 2012 年 7 月 28 日

Maruyama, Junko "Resettlement Site and Bush Residences: The Dynamics of Livelihood and Residential Pattern among the San in Central Kalahari" Kolner Ethnologisches Kolloquium, Cologne University, Germany. 2012.6.5.

Maruyama, Junko "Land, livelihood, and the indigenous peoples movement: a comparison of two cases of the San of Botswana and South Africa" Biennial Conference of the African Studies Association in Germany, Cologne University, Germany. 2012.6.1.

丸山淳子　「「狩猟採集民」であること、「先住民」になること：ボツワナにおける先住民運動の展開とサン社会の再編」津田塾大学国際関係研究所研究懇談会、津田塾大学 2012 年 1 月 19 日

丸山淳子　「原野でケータイを使う：ボツワナ遠隔地へのケータイ普及と狩猟採集社会の新たな展開」第 3 回武蔵野アフリカ研究会 津田塾大学 2011 年 12 月 19 日

Maruyama, Junko "Resettlement, Development and Indigenous Peoples' Movement: Two Cases from San Communities" Kyoto University African Studies Series, Kyoto University 2011.10.21.

丸山淳子　「アフリカにおいて「先住民」になること：ボツワナと南アフリカに暮らすサンの事例より」白山人類学研究会　東洋大学 2011 年 10 月 17 日

丸山淳子　「土地・文化・リーダーシップ～南部アフリカにおいて「先住民」になること～」研究会「先住民の交渉」東京大学 2011 年 10 月 15 日

Maruyama, Junko "Comparative Analysis on Indigenous Peoples in Africa: Botswana, South Africa and Cameroon"研究会「アフリカの「先住民」を考える」津田塾大学 2011 年 7 月 6 日

丸山淳子「少数者の生きる場：南部アフリカにおける再定住地を拠点としたサンの社会再編」日本文化人類学会第 45 回研究大会　法政大学 2011 年 6 月 12 日

丸山淳子「南部アフリカにおけるサンの先住民運動に関する比較研究」日本アフリカ学会第 48 回学術大会　弘前大学 2011 年 5 月 22 日

丸山淳子「変わりゆく狩猟採集社会：再定住地に暮らすブッシュマンの 10 年」第 178 回アフリカ地域研究会　京都大学 2011 年 3 月 17 日

丸山淳子「研究会趣旨：アフリカの「先住民」を考える」研究会「アフリカの「先住民」を考える」京都大学 2011 年 2 月 9 日

Maruyama, Junko "Return to the bush: Livelihood of "Indigenous People" in Botswana and Australia" Workshop 'Negotiation of

indigenous identities: Comparative study on Indigenous people among national and international environment', National Museum of Ethnology, 2010.12.5.
丸山淳子「少数民族の生きる場：ブッシュマンをめぐるアサイラムとアサイラム空間」国立民族学博物館共同研究会「アサイラム空間の人類学」国立民族学博物館 2010 年 7 月 25 日
丸山淳子「「民主国家」ボツワナにおける「先住民」サンの政治参加国立民族学博物館共同研究会「デモクラシーの人類学」国立民族学博物館 2010 年 6 月 6 日

〔図書〕（計　１件）
丸山淳子 2010『変化を生きぬくブッシュマン：開発政策と先住民運動のはざまで』世界思想社 337 ページ

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
□調査成果の現地への還元のための百科事典
Maruyama, Junko 2011 "ancestor", "cat", "cattle-raising" "council" "disco" "draught relief program" "headman/headwoman" "horticulture" "Kx'oenshakene" "porridge" "Remote Area Development Programme" "shop" "skill training programme" in Tanaka, Jiro and Sugawara, Kazuyoshi eds. *Encyclopedia of the |Gui and ||Gana San*
Tanaka, Jiro. and Maruyama, Junko 2011 "Ghanzi" "ration" "residential pattern" in Tanaka, Jiro and Sugawara, Kazuyoshi eds. *Encyclopedia of the |Gui and ||Gana San*

□アウトリーチ活動：特定非営利活動法人アフリック・アフリカ http://afric-africa.vis.ne.jp/
≫講演活動「アフリカ先生」プロジェクト
丸山淳子「ブッシュマンの子育て:親が子どもに伝えたいこと」つづき MY プラザ（都筑多文化・青少年交流プラザ）2013 年 11 月 29 日
丸山淳子「ブッシュマンと暮らす・ブッシュマンに学ぶ」JICA ボツワナ共和国セミナー、ハボロネ 2010 年 9 月 18 日

≫ウェブ・エッセイ
丸山淳子「祝われない誕生日」2010 年 7 月 9 日
丸山淳子「休んでいましたか？」2011 年 2 月 9 日
丸山淳子「あきらめられないこと―若すぎる死を悼んで」2011 年 10 月 13 日
丸山淳子「干し肉、干し木の実、干しスイカ：保存するほどたくさんあるのなら…」2012 年 7 月 13 日
丸山淳子「砂がなければ、はじまらない：カラハリ砂漠のおいしい調理方法」2012 年 10 月 13 日
丸山淳子「罠を見に行こう」2013 年 11 月 10 日

６．研究組織
(1)研究代表者
丸山淳子（まるやまじゅんこ）
研究者番号：
４４４４７２

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：